

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190400356		
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト川越		
所在地	埼玉県川越市鯨井1136-1		
自己評価作成日	2020/10/9	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php?
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	令和2年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月全体会議・フロア会議を開催し、ご利用者の心身状態などを考慮しながらチームケアを実践している。毎月のイベントにスタッフが各々アイデアを出しながらご利用者の笑顔を引き出させるよう工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 家族との面会については「ウッドデッキを使用する・ガラス越しに向き合う・電話を使用する・リモートシステムを使用する」等々の工夫を凝らしながら家族との関係性維持にあたっています。アイデアを凝らした取り組みは他の施設の範となります。
- 終末期の支援について開設以来初めて取り組みがなされています。最期の場所として選んでくれた誇りをもって支援に臨み、支援後に家族からかけられる感謝の言葉を今後のケアや運営の励みとしています。
- 昨年の台風到来に対しては事業所内の垂直避難により対応しています。ハザードマップ等により被害を推測し、対応方法をフローにまとめる・備蓄や備蓄の整備をする等の方策が講じられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人に寄り添って笑顔あふれる優しいホーム」の理念を掲げ、全体会議、フロアミーティング等で共有し、サービスに努めています。	理念の掲示・エルダー制度やチェックシートによる新人教育等により法人の方針の実現に努めている。経験ある職員による寄り添うケア・慎重な対応による家庭的な支援の提供にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で本年度の地域交流は行えませんでした。昨年度は、イベントなどの時にボランティアさんによる演奏、踊りの披露などを行っていました。	学校への廃材提供等コロナ禍においてもできうことで地域貢献に努めている。ご近所から果物をいただくなどあたたかな親睦が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族への説明を通じ、認知症の方への理解を勧めていただいています。本年度は地域の集まりが無く、活かせる場面は少なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、紙面にて運営推進会議をさせて頂きました。普段出席の叶わないご家族からもご意見や、ねぎらいの言葉もいただいております。入居者様の日常生活を報告し、ホームでの取り組みを理解していただくと共に、事故報告などもさせて頂き意見を頂戴し、事故防止に役立てています。	新型コロナウイルス感染防止のため、自粛および書面開催にて対応している。送付後のアンケートにより意見を聴取しており、変わらぬ協力を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生委員や地域包括支援センターとの定期的な連絡や、高齢者生きがい課への連絡相談を行っています。	行政からはメール等により新型コロナウイルスへの指導・連絡を受けている。法人からマニュアルの改訂・消毒等の対応指示をもらい、職員による適切な対応が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束について利用者様個別に事例検討を行っており、ただいま身体拘束を行っている方はいません。	身体拘束の実施はないものの、廃止委員会開催により、スピーチロック等の可能性について検討している。禁止や押さえつけではなく、共感やチームワークにより支援体制を構築するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を開催し、疑われる事例があれば個別に改善を行っています。気づきシートを活用し、個別に虐待につながってしまう事例を把握、改善が行えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援制度や成年後見人について、社会福祉協議会の担当者や生活保護担当者と連絡を取って行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や入居契約時に丁寧に説明し、ご利用者様やご家族様の不安を取り除くと共に、入居生活を続けられなくなり事例についても説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が相談の窓口になり対応している。外部の相談窓口についても、重要事項説明書に記載されており、契約時に説明を行っています。	コロナ禍における面会制限についても家族への丁寧な説明により理解を得ている。本評価に伴う家族アンケートからも上記について感謝や賛同の声が多数寄せられている。	家族から職員の氏名紹介を求められており、周知方法を検討している。名札や掲示ではない方法を模索しており、自然な形で紹介となることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談・日々の会話の中や、全体会議、フロアミーティングにて運営に関する職員からの意見を取り入れることをしている。	全体会議による研修や決定事項の周知、フロアミーティングによる個別ケースカンファレンスがなされている。職員からの意見や要望はケアプラン作成時に参考としている。	職員の年齢構成を意識し、若い職員の採用にも注力の意向をもっている。若い職員ならではの新しいケア方法や知識を吸収し、事業所全体の活性化につなげることを目標としている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行い、職員の個々のやりがいや向上心を持てるように話し合いを持っています。昇給に関しては評価制度と評価面談に基づき対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量や、心情理解に努め、必要な内部研修を行っています。また、外部研修の機会も設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度よりCCNかわごえに参加し同業者との交流をはかっていましたが、現在コロナの影響で会議は行っていません。自社内の研修参加や、外部研修を通じ、ネットワーク作りに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談、入居前の実調を通じ、ご本人・ご家族様の心情理解に努め、入居前に職員と情報共有し、受け入れ態勢を整え、安心してご入居いただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、入居前の実調などを通じ、ご家族様の要望や不安なことをお伺いするとともに、十分な説明を行い信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報を基にプランを作成しているが、入居後の変化に対応し、フロアミーティングなどで情報共有し、随時プラン変更などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを提供し、役割をもって生活していただけるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人暮らしぶりを報告するとともに、グループホームでの生活にはご家族の協力も必要だとお伝えし、ご協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は面会は常に受け入れられるようになっておりましたが、今は窓ガラス越しの面会と、電話、TV電話での面会のみになっております。	家族との面会については「ウッドデッキを使用する・ガラス越しに向き合う・電話を使用する・リモートシステムを使用する」等々の工夫を凝らしながら家族との関係性維持にあたっている。アイデアを寄せた取り組みは他の施設の範となる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	配席の工夫や、会話の橋渡し話題の提供などを行い、ご利用者様同士が交流できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も関係性を大切にし、ご本人の経過や、他のご家族様の相談なども受け付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や生活サイクルを乱さないように援助を行うことに努めています。困難な場合はフロア会議やサービス担当者会議等で検討しています。	日々のコミュニケーションを大切にし、気持ちを伝えながら信頼関係の構築に努めている。利用者一人ひとりの特性を意識し、その意向を把握したうえで各種対応にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調でご本人の生活歴についてお伺いし、入居前に各職員が把握できるように努めています。また、日々の会話の中で本人からお伺いしたり、ご家族様が来所時にお伺いし、暮らし方の理解に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表に24時間の状態を記録し、心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様への連絡、相談。ご本人の意向をくみ取り。3か月ごとのモニタリング、毎月のフロアミーティング、サービス担当者会議を行い、本人の状態に則したプラン作成に努めています。	モニタリング・サービス担当者会議を経てケアプランの策定がなされている。介護記録にケアプランを挟み常に確認するなど工夫をした取り組みにより浸透を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日課計画表に記録し、職員間で情報を共有できるようにし、モニタリングに役立て、プラン変更時に活かされるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでもご家族のご希望があり、看取りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のボランティアビューローに依頼し、イベントなどのボランティアを受け入れや、大正琴の個別レクレーションの為にボランティア受け入れを行っていましたが、現在はコロナの影響で中止しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の定期往診があり、主治医への状態説明を行っています。他科受診の指示があれば、ご家族様と相談し受診介助も行っていきます。	内科については往診および外部受診利用者・家族が選択し、健康管理にあたっている。新型コロナウイルスへの対応については法人内他施設と協調し、スケールメリットを活かした取り組みや準備がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の看護師による健康相談時に日々の様子報告や相談を行っています。看護師による主治医への報告も行われています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院との連携がとれるよう、病棟看護師への情報提供を行っています。医師からの病状説明の際はご家族と同席し、また退院調整の相談員等との連携も取るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ説明を行い、意向を伺っています。状態変化により随時ご家族様に連絡を行い、主治医からの説明の機会を設けたりし、その都度意向を伺っています。場合により他の事業所や病院とも連絡をとり、お気持ちに沿った支援が出来るようにしています。	終末期の支援について開設以来初めて取り組みがなされている。最期の場所として選んでくれた誇りをもって支援に臨み、支援後に家族からかけられる感謝の言葉を今後のケアや運営の励みとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のためAEDの研修を年1回行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練のほかに災害時(大雨災害)の役割分担や避難時のフローを作成し、会議の時に周知し、掲示しています。	昨年の台風到来に対しては事業所内の垂直避難により対応している。ハザードマップ等により被害を推測し、対応方法をフローにまとめる・備蓄や備蓄の整備をする等の方策が講じられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為、他利用者様がいるときには個人の話はせず、居室などで行っています。	グループホームの良さを出していけるよう利用者との距離感を考慮した支援にあたっては、職員が感情的にならないようレスパイト等チームワークによりホーム全体で支援できる体制が整えられてる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者の押し付けを止め選択していただけるようにしています。日々の会話の中でご本人の意向を伺えるように信頼関係を築けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の大まかなペースは決まっていますが、日々の過ごし方は一人一人のペースで過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選択できる方には入浴準備は自身で行っていただいています。自分で出来ない方も職員と相談しながら行っています。2か月に1回のヘアカットも髪型は自分で決めてカットされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片づけのできる方は見守りのもと行っていただいています。メニュー表を毎日書き換えて、食事前に読み上げて頂いたり、月1回のイベント時には季節にあった食事提供や行事にまつわる話等も行っています。	利用者の状態や好みを考慮し、形状等を変更しながら食事提供がなされている。食器拭き等利用者に手伝ってもらうことによりできることを増やしていけるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録をし、状態把握に努めています。個々の食事形態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来る方はお声掛けをし、介助の必要な方はその方の状態に合わせて介助を行っています。歯科医師の助言をもとにケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時トイレ誘導を止め、その方の排泄パターンを把握し介助を行っています。	利用者とコミュニケーションを図りながら排せつ状況を確認し、記録と支援にあたっている。装具の大きさやトイレでの状況を職員間で確認し、日々適切な支援となるよう検討がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な方には水分摂取を促したり、運動の機会を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお声掛けをしていますが、自己決定により入浴されないこともあります。清拭更衣に切り替えたり、足浴等で入浴の気持ちよさを思い出していただき入浴につなげてたりしています。	入浴を拒否する利用者に対しては声かけ方法や時間を工夫するなどして対応を図っている。無理強いをせず、かつ清潔の保持と体の保温が実践できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活サイクルを把握して決して無理強いにならぬよう、午睡や入床時間等その方のサイクルに合ったリズムで休んで頂けるように支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬情をケースファイルに綴りいつでも見られるようにすると共に、処方が変わったときは連絡ノートに記載し周知に努めています。職員より状態変化などの報告、連絡は往診ノートにて行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクリエーションや生活リハビリの提供を行っています。出来る方は、フロア掃除や洗い物・縫物・洗濯たみなどを行っていただき、役割を持って生活されています。喫煙の習慣のある方もおられ継続されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、イベントとして花見ドライブ等を行っています。コロナ禍によりご家族との外出や、昨年行ったバス旅行などは控えています。	コロナ禍においても衛生上の配慮をしながらドライブ、誕生日会、歌唱等を楽しめる企画がなされている。回数や人数を考慮しながら散歩をするなど利用者のストレスの緩和に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替払いになっており、必要なものを代行で購入させていただいています。お金を所持していないと落ち着かない方には所持していただいています。コロナ禍で、外出などの制限もありお金を使う場面は見られていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して自分で電話をかける方はおられません。希望があればおつなぎしております。家族からの手紙を楽しみにされている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清掃は毎日行っています。状況に合わせてテーブルのレイアウトを変更し、同線の確保を行っています。壁面には季節感のある装飾物をご利用者様とともに制作し飾っています。また、行事などの写真も施設内に展示しています。	外出機会の自粛、職員のマスク着用、各所の消毒、定時での検温等々新型コロナウイルスへの対応がなされている。終息までの間はウィズコロナとして家族からの理解をもらったうえで取り組みの継続を表明している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に掘りごたつやソファが配置されており、自由に座り、気の合ったご利用者様同士が会話したり、TVを観たりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたなじみのある家具等を持ち込んでいただき、落ち着いて生活が出来るように配慮しています。	日中はリビングで過ごすことが多いことから居室は休息の場として機能している。他の利用者との共同生活がうまくいくよう職員が間に入りながらサポートに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどがわからない入居者様には名前を掲示したり、目印をつけたし工夫をしています。危険と判断される動線には障害物を置かない様環境整備に努めています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族から職員の氏名紹介を求められており、周知方法を検討している。名札や掲示ではない方法を模索しており、自然な形での紹介となることが望まれる。	ご家族が職員の名前を憶えており、電話での話でも担当者などがわかる。	コロナ禍で直接面会の時にお顔を合わせる事が無くなった為、名前と顔の一致は難しいが、月1回のイベント写真を送付するときに、イベント担当者を紹介することで、名前を憶えていただき、電話で話をするときに名を名乗ることで特定していただく。	12ヶ月
2	11	職員の年齢構成を意識し、若い職員の採用にも注力の意向をもっている。若い職員ならではの新しいケア方法や知識を吸収し、事業所全体の活性化につなげることを目標としている。	若い職員とベテラン職員の歯車がかみ合っており、互いに刺激があり、また協力体制が出来ている。	若い職員に外部研修などの受講等を促進し、外部研修を受けてきた職員による内部研修実施により、ベテラン職員も新しい知識を得る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。